

探究 ひとを想い 先駆する青年たれ

一般社団法人 和歌山青年会議所 www.wakayama-jc.net

Report

2019年9月18日(水) 和歌山中央コミュニティセンター

SDGsを身近に！2030年までの目標を作成する9月度例会

例会委員会 委員長 田代紘規

2019年9月18日(水)、和歌山中央コミュニティーセンターにて、『SDGsを身近に！2030年までの目標を作成する9月度例会』と題して9月度例会を開催いたしました。SDGsを楽しく学べるようにカードゲーム「SDGs de 地方創生」を行い、ゲーム進行には、大阪JCMメンバーの仲摩陽介君に講師としてお越しいただきました。カードゲームでは、グループに分かれてそれぞれの目標や都市全体の目標などが与えられ、それらを解決するためにチームの枠を越えた行動や交流が生まれ、ゲームは大いに盛り上がり、目標をすべてクリアすることができました。本例会を通して楽しくSDGsを学んでいただくことができ、意義深い例会となりました。



山路理事長の挨拶



全国大会のPRをする田邊委員長



講師の仲摩陽介君



謝辞を述べる井川副理事長



カードゲームを終えて感想を発表しました



楽しみながらSDGsを学んでいる様子



参加したメンバーたち

2019年10月4日(金)～6日(日) 和歌山市

香港沙田青年商會公式訪問団受入

国際交流委員会 委員 重藤雅之

2019年10月4日(金)から3日間、姉妹JＣである香港沙田青年商會公式訪問団の受入事業が行われました。

和歌山青年会議所と香港沙田青年商會との友好関係は四半世紀以上に亘り先輩諸氏から引き継がれてきたものですが、本年度の受入事業においても両国の友好関係を絆を一層深めるために様々な交流プログラムが行われました。

まず、1日目には公式会議が行われ、姉妹JＣとして今後も友好関係を発展させていくことが確認され、次年度の

香港沙田青年商會公式訪問の際に予定されている共同事業についての意見交換が行われました。

2日目の午前中には株式会社豆紀様の納豆製造工場への企業訪問を行いました。株式会社豆紀様のご担当者様から伝統的な日本食である納豆の製造方法の解説や製造工場の案内をしていただきましたが、香港沙田青年商會メンバーから活発な質問が出るなど、日本の食文化に関心を持ってもらうことができました。



事業を担当した国際交流委員会の西畑委員長



サンミ理事長手作りの品を頂きました



わとらんフィギュアを贈りました



今後も友好関係を続けていきます



公式会議の様子



日前宮を参拝しました



(株)豆紀様の工場を見学しました

2日目の午後からは和歌山マリーナシティを散策しました。この散策の際には、新たな試みとして香港沙田青年商會メンバーと和歌山青年会議所メンバーが少人数で行動を共にするパディ制を採用しました。少人数のメンバーで相談して散策先を自由に決め行動を共にすることにより、両国の個々のメンバー同士が関係を深めることができました。

3日目には伊太祁曽神社、竈山神社、日前宮への三社参りを行いました。古くから行われてきたお参りの習慣を香港沙田青年商會のメンバーに体験してもらうことにより、和歌山の風土と信仰を肌で感じてもらうことができましたと思います。

この3日間の交流事業を通じて両国のメンバー同士が打ち解け、香港沙田青年商會メンバーからは「とても楽しかった。」という言葉を多くいただきました。本年度の交流事業により香港沙田青年商會メンバーには和歌山市の魅力を知ってもらうとともに、私たち和歌山青年会議所との絆を再認識してもらうことができましたと確信しております。



ウエルカムパーティー



楽しい懇親会



和歌山駅でお見送り



サンミ理事長をご案内



和歌山マリーナシティを散策

11月度告知

研修事業

2019年11月2日(土)10時から15時まで
河西緩衝緑地公園

本事業は、養護施設の児童と一緒に時間を過ごし、児童に関する社会問題に携わる機会となります。また、新入会員にとっては初めての事業となり、既存の会員とも交流を深め、青年会議所の一員としての自覚を持ってもらう機会ともなります。つきましては、ご多忙のことは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

(会員拡大委員会 委員長 玉置清正)

卒業式例会並びに懇親会

2019年11月15日(金)

【卒業式】18:30から19:50まで

【懇親会】20:00から22:30まで

ホテルアパローム紀ノ国

本年度は23名の同志がご卒業されます。多くのメンバー・特別会員の皆様とともに卒業生がこれまでの青年会議所運動の軌跡を振り返りながら、笑顔が溢れる卒業式を盛大に開催し、和歌山青年会議所全員で祝福し、送り出したいと考えております。是非とも多くのメンバーの皆様にご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

(会員開発委員会 委員長 和田篤樹)

11月 スケジュール

2	土	研修事業	河西緩衝緑地公園
6	水	第21回財政規則審査会議	事務局
8	金	第22回三役会	株式会社ナルセ
12	火	理事会	商工会議所
15	金	例会卒業式	ホテルアパローム紀ノ国
16	土	那賀JC周年記念式典	那賀
22	金	第22回財政規則審査会議	事務局
24	日	第11回会員会議所会議	海南
25	月	第23回三役会	株式会社ナルセ
		近畿地区正副会長会議	東近江
26	火	近畿地区役員会議	東近江
28	木	委員長会議	商工会議所

わとらんが行く！和歌山市が誇る企業の現場 「智辯和歌山野球部」編（後編）

取材協力：智辯学園和歌山高等学校野球部監督 中谷 仁 様

（前編からの続き）

3 コーチ・監督に就任してから

チームを強くするためにいろんなことに取り組んでいますが、そのひとつとして選手たちが自分で考えるシステムを作るということが挙げられます。選手たちとコミュニケーションを取り、どうしたら上手になれるのかということをしっかり考えさせることです。今時の選手たちはインターネットから情報を拾ってきて自分なりの練習方法を築こうとしています。厄介なのは、有名なプロ野球選手が極端な練習方法をしているのを知って、それをそのままマネしてしまうことです。そのプロ野球選手がそうした練習方法にたどり着くまでには、身長、体重、能力などの与えられた条件に応じて試行錯誤を繰り返してきたはずですが、結果的に無駄な練習もあったでしょうが、無駄であるという判断をするために考え抜いてきたその過程が大事なものであって、結論部分だけを見てそれが自分にも当てはまると安易に考えてしまっ



てしまっはいけません。情報が溢れているからこそ、それを処理する能力を養ってもらうために、選手たちとしっかり話し合い、考えてもらうことを心掛けてきました。

もちろん野球の練習はしっかりとさせています。ミスしたら何度も繰り返させ、体で覚えさせます。プロの世界は3回ミスしたらクビになる、という厳しい世界です。ミスしないようにするためには、無意識にできるようになるまで反復するしかないんです。野球は団体競技である以上、チームプレイの連携ができなければ評価が下がってしまいます。例えば投手の池田陽佑にはベースカバーの練習を何度も何度もさせた結果、動作が遅れることはなくなりました。夏の甲子園での星陵戦ではタイブレークにもつれ込みましたが、そこでパントシフトがしっかりと決まったのも日頃からやってきた何万回もの反復練習の成果です。彼の中ではしつこく練習させる私のことを最初は「この人なんやねん」と思っていたようですが、今では感謝しかないと言ってくれるようになりました。

今年の3年生は私と同じ時期に野球部に入ってきた子たちですが、厳しい練習を課す私のことを本当に怖いと思っています。反面、だからこそ全ての甲子園に出場することができたのだということも理解してくれていると思います。

4 高嶋仁先生から受け継ぐべきもの

前監督の高嶋先生は甲子園や勝利への執着心がとにかく強い方で、そこに向かってひたむきに野球に取り組まれます。その反面、高校野球のこと以外は知らないことが多かったりもするくらいなんです。そういうひたむきな姿勢を私たちは見てきました。今年のチームは日本一になるんだという高

い志を持って、ひたむきに練習を積んできました。日本一の練習をしているんだという自信を持てるくらいまで練習を積んできたからこそ、どんな苦しい場面であっても「負ける気がしない」という気持ちを持って打席に、マウンドに立つことができるんだと思います。

ひとつのことにひたむきに取り組むという姿勢は野球部に限らず、アルプスの応援団も含めて、学校全体で感じることがあります。アルプスからの声を枯らした応援がめっちゃくちゃ聞こえてきて、ベンチにいる私たちも何か起きるんじゃないかという気持ちになります。

そういう学校全体を通じたひたむきに取り組む姿勢というものが、勝負所で神がかった信じられない逆転劇を呼び込むことにつながっているのではないかと思います。高い志を持ってひとつのことにひたむきに取り組む姿勢こそが高嶋先生から受け継ぐべき智辯和歌山のDNAなんだと思います。

5 今後の目標

高嶋先生は甲子園通算勝利数で日本一の記録を築かれており、私も周りから期待の声を掛けていただくことがあります。ですが、正直、私の野球人としての人生は終わりを遂げたので、そんな記録は本当にこれっぽっちもアタマにありません。

私が望んでいることは、野球部で鍛えた子どもたちが、社会に出て立派になってくれることです。社会で活躍する智辯和歌山OBが一人でも増えてくれたらいいと思っています。

私は現役時代に田中将大、藤川球児など何人もの超一流と呼ばれるプロ野球選手の球を受け、直に接してきました。そうした選手たちに共通して言えるのは、みんな「カッコいい」ということです。礼儀やマナーはもちろんのこと、例えば後輩にご飯をおごったりとか、女性に対して紳士的に振る舞えるとか、そうしたカッコいいことをできる人たちがばかりです。私も選手たちに折に触れて「カッコをつける。カッコつけてなんぼや！」と言ってきました。それが一番浸透したのがキャプテンの黒川史陽です。星陵戦で相手投手の奥川恭伸君が足をつったとき、黒川が守備交代の際に星陵の他の選手を通じてそっとサプリメントを差し入れました。試合後に奥川君が記者に話してメディアでも取り上げられましたが、あの何万人もの大観衆の中で誰にも気付かれないようにやってくれたのが、最高にかっこつけてくれたと思います。

プロ野球とは違い、高校野球は儂いもので、どれだけ鍛え上げた選手でも3年生の夏が終われば抜けてしまい、新しい選手が入ってきます。その繰り返しです。日本一になりたいという子どもたちをしっかりと鍛え、今、最善と思うことを積み重ねていく、それが私の仕事です。



編集・発行

一般社団法人 和歌山青年会議所

和歌山市西汀丁36番地(和歌山商工会議所5F)
TEL.073-428-3334(代) FAX.073-431-1693
URL : <http://www.wakayama-jc.net>
mail : office@wakayama-jc.net

